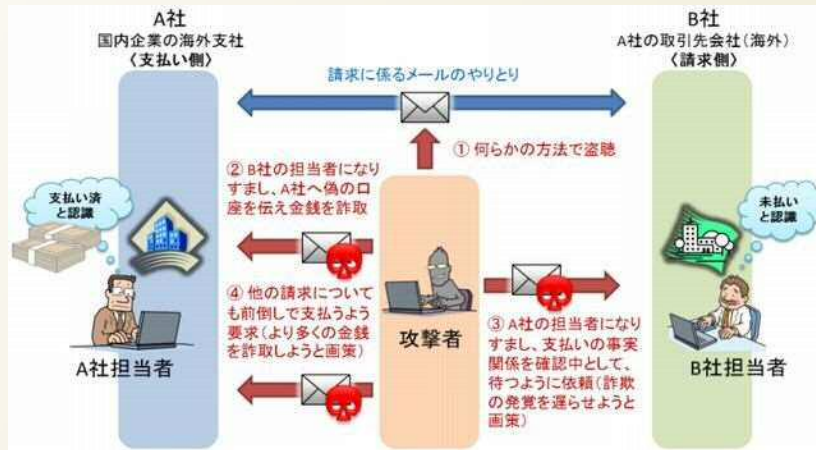




月刊赤松事務機 通信

❖ ビジネスメール詐欺に注意、IPAが呼び掛け ❖

情報処理推進機構（IPA）は4月3日、企業などに対して「ビジネスメール詐欺」（BEC）への注意を呼び掛けた。BECは海外での被害が報告されているが、国内にも広がりつつある可能性があるとしている。



BECの一例（出店：IPA）

BEC (=Business Email Compromise) は、企業幹部や取引先などになりすましたメールを使って経理や財務などの担当者をだまし、犯罪者が指定した口座に送金させる詐欺。犯罪者は、詐称する人物名やメールアドレスを細工するだけでなく、だます相手とメールで巧妙なやり取りを重ねるといった特徴が知られる。

■ 本物のメールアドレス	alice @ company-a . com
■ 偽物のメールアドレス	① alice @ compnay-a . com
	② alice @ companys-a . com
	aaalice @ company-a . com
	③ alice @ compny-a . com
	④ alice @ cornpany-a . com
	⑤ alice-company-a @ freemail.com

- ① メールアドレスを1文字入れ替える
- ② メールアドレスに1文字追加する
- ③ メールアドレスを1文字削除する
- ④ メールアドレスの一部を誤認しやすい文字に置き換える(例:m(M) → rn(RN))
- ⑤ フリーメールサービスを使いそれらしいメールアドレスを作る

メールアドレスを詐称する一例（出店：IPA）

- タイプ1: 取引先との請求書の偽装**
(例) 取引のメールの最中に割り込み、偽の請求書(振込先)を送る
- タイプ2: 経営者等へのなりすまし**
(例) 経営者を騙り、偽の振込先に振り込ませる
- タイプ3: 窃取メールアカウントの悪用**
(例) メールアカウントを乗っ取り、取引先に対して詐欺を行う
- タイプ4: 社外の権威ある第三者へのなりすまし**
(例) 社長から指示を受けた弁護士といった人物になりすまし、振り込ませる
- タイプ5: 詐欺の準備行為と思われる情報の詐取**
(例) 経営層や人事部になりすまし、今後の詐欺に利用するため、社内の従業員の情報を窃取する

Copyright © 2017 独立行政法人情報処理推進機構

主にBECの5つのパターン（出店：IPA）

IPAは、重要インフラ分野など87の組織とサイバーセキュリティ情報などを共有する体制「J-CSIP」を運用しており、J-CSIPに参加する複数企業でBECの攻撃が確認され、一部では金銭が搾取される被害に及んでいたことが分かった。

今回の注意喚起ではIPAが4件の実例をもとに、BECの5つの特徴や対策についても解説している。

参考資料：ZDNET Japan